

2017. 6. 26

---

プレスリリース

---

## 「内外の化繊工業の動向」

2017年 第1四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。  
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その「概要」をお届けします。  
ご高覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

## 概 要 (2017年第1四半期)

2017年1-3月のわが国の景気は海外の景気回復を背景に輸出が好調、個人消費や住宅投資も底堅く推移し、緩やかな上昇基調を辿った。

このような中、化繊景況は衣料用が全般低調、産業資材用はエアバッグ用など自動車関連が堅調に推移した。化繊生産は22.5万トン・前年同期比3.8%減となった。

### 国 内

- 1) 衣料用途は、婦人服を中心に百貨店の販売不振などの影響で全般に低調だった。ユニフォーム・ワーキング用は在庫調整が進み回復に転じた。保温肌着用は大手SPA向けが順調だったが、GMS（総合スーパー）向けは不振。中東民族衣装向けは原油価格安による消費減退で数量減となった。インテリア用途は、カーペットがオフィス、大型商業施設向けが順調に推移。カーテンはコントラクト需要が底堅かったがホームユース用が依然低調。衛材用途は、中国向け紙おむつの製品輸出が昨年1年間の調整局面を経て再び増加基調に転じた。生活資材用途は、コスメ・スキンケア商品、制汗シート向けが堅調だったが、貼布剤用は苦戦が続いた。自動車関連用途は、エアバッグ用が好調に推移、タイヤコード用はポリエステル使いの織物・強力糸の高水準の輸入が続いた。カーシート用は自動車生産が上向きになり順調だった。建築資材用途は、耐震工事や都市再開発事業が活発化して堅調だった。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体で前年同期比（以下同じ）3.9%減、化繊5.4%減、紡績7.8%減。在庫指数（3月末）は、繊維工業全体が前年同月比（以下同じ）2.6%減、化繊6.5%減、紡績0.7%減。（2010年=100、生産、在庫とも指数ベースでの比較）
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで17.9億ドル・前年同期比（以下同じ）2.7%減、円ベースでは2,036.7億円・4.1%減。形態別（ドルベース）は、繊維原料2.2億ドル・21.7%減、糸類2.6億ドル・0.5%増、織物類5.4億ドル・3.5%減、二次製品他7.7億ドル・4.2%増。仕向地別（ドルベース）では、全体の27.8%を占めた中国が3.7%減の5.0億ドル、香港（7.2%減）、韓国（2.3%減）、台湾（5.8%増）、アセアン地域はベトナム（8.9%増）、タイ（9.1%増）、インドネシア（5.0%減）・マレーシア（16.9%減）、それ以外では西アジア（3.3%減）、欧州（1.7%減）、米州（7.8%減）となった。
- 4) 繊維品輸入は、ドルベースで89.4億ドル・前年同期比（以下同じ）0.8%減、一方円ベースでは1兆164.9億円・2.3%減。形態別（ドルベース）は、繊維原料1.6億ドル・2.7%増、糸類2.9億ドル・5.8%減、織物3.1億ドル・2.3%減、二次製品他81.8億ドル・0.6%減。仕出地別（ドルベース）では、全体の59.3%を占めた中国が2.6%減の53.1億ドル、韓国（3.8%減）、台湾（5.2%増）、アセアン地域は、ベトナム（9.7%増）、

インドネシア (0.9%減)、タイ (0.5%増)、マレーシア (10.8%増)、それ以外では、イタリア (1.2%減)、米国 (6.0%減) となった。

### 繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	2015. 1-3	2016. 1-3	2017. 1-3	2016年比 (%)	2015年比 (%)
輸出	千ドル	1,906,851	1,843,610	1,794,692	-2.7	-5.9
計	百万円	227,187	212,350	203,670	-4.1	-10.4
繊維原料	千ドル	386,419	284,754	222,955	-21.7	-42.3
糸類	〃	267,330	258,502	259,877	0.5	-2.8
織物類	〃	556,409	564,227	544,543	-3.5	-2.1
二次製品他	〃	696,693	736,126	767,317	4.2	10.1
輸入	千ドル	9,134,719	9,015,902	8,941,993	-0.8	-2.1
計	百万円	1,086,681	1,040,594	1,016,486	-2.3	-6.5
繊維原料	千ドル	158,283	159,103	163,342	2.7	3.2
糸類	〃	324,123	304,974	287,153	-5.8	-11.4
織物類	〃	336,190	317,018	309,719	-2.3	-7.9
二次製品他	〃	8,316,122	8,234,807	8,181,778	-0.6	-1.6
(うち衣類)	〃	(6,999,590)	(6,927,035)	(6,836,852)	-1.3	-2.3
輸出レート	円/ドル	119.1	115.2	113.5	-1.5	-4.7
輸入レート	円/ドル	119.0	115.4	113.7	-1.5	-4.4

(出所) 財務省

5) 化繊生産は 22 万 4,957 トン・前年同期比 (以下同じ) 3.8%減、うちセルロース繊維 4 万 8,656 トン・9.1%増、合繊 17 万 6,301 トン・6.8%減となった。期末 (3 月末) 在庫は 8 万 6,715 トン・5.5%減、うちセルロース繊維 1 万 7,821 トン・0.2%増、合繊 6 万 8,894 トン・6.9%減であった。

化繊輸出 (繊維原料～二次製品) は 13.3 万トン・前年同期比 (以下同じ) 3.9%減。うち、繊維原料 5.2 万トン・16.6%減、糸類 3.0 万トン・4.1%増、織物類 (面積ベース) 1.41 億㎡・2.2%減、二次製品 2.6 万トン・10.5%増となった。品種別では、レーヨン S 22.1%増、ナイロン F 28.5%増、ポリエステル F 11.1%増、ポリエステル S 24.9%減、アクリル S 6.7%減、織物類 (面積ベース) はナイロン F 織物 13.9%減、ポリエステル F 織物 1.7%減、ポリエステル S 織物 2.9%減であった。

化繊輸入 (繊維原料～二次製品) は 37.1 万トン・前年比 3.5%増。うち、繊維原料 2.3 万トン・8.6%増、糸類 5.5 万トン・1.2%減、織物類 (面積ベース) は 1.52 億㎡・1.0%減、二次製品 26.1 万トン・4.3%増、うち衣類 12.1 万トン・3.6%増となった。品種別では、レーヨン S 27.7%減、ナイロン F は 5.5%減、ポリエステル F 3.1%増、ポリエステル S 30.9%増、ポリエステル紡績糸 11.8%減、織物類 (面積ベース) はポリエステル F 織物 1.4%減、ポリエステル S 織物 3.3%増であった。

## 化学繊維の主要指標

項 目	単 位	2015. 1-3	2016. 1-3	2017. 1-3	2016年比 (%)	2015年比 (%)
化繊生産	千トン	239.5	233.7	225.0	-3.8	-6.1
セルロース	〃	45.7	44.6	48.7	9.1	6.5
合 繊	〃	193.9	189.1	176.3	-6.8	-9.1
化繊在庫	〃	90.5	91.8	86.7	-5.5	-4.1
セルロース	〃	18.7	17.8	17.8	0.2	-4.5
合 繊	〃	71.8	74.0	68.9	-6.9	-4.1
化繊輸出	千トン	151.5	137.8	132.5	-3.9	-12.5
	100万ドル	1,237.5	1,161.1	1,118.8	-3.6	-9.6
	億円	1,474.4	1,337.4	1,269.7	-5.1	-13.9
繊維原料	千トン	76.6	62.1	51.8	-16.6	-32.4
糸 類	〃	28.7	29.1	30.3	4.1	5.6
織物類	百万㎡	140.8	144.4	141.3	-2.2	0.3
二次製品	千トン	23.5	23.7	26.2	10.5	11.5
化繊輸入	千トン	340.3	358.3	370.7	3.5	8.9
	100万ドル	3,923.0	3,922.3	4,060.6	3.5	3.5
	億円	4,666.3	4,528.0	4,616.6	2.0	-1.1
繊維原料	千トン	15.6	21.0	22.8	8.6	46.4
糸 類	〃	55.7	55.2	54.5	-1.2	-2.1
織物類	百万㎡	167.3	153.9	152.3	-1.0	-9.0
二次製品他	千トン	236.9	250.3	261.1	4.3	10.2
(うち衣 類)	〃	(113.3)	(116.9)	(121.2)	3.6	6.9

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

### <ポリエステルF>

2017年第1四半期のポリエステルフィラメントの生産は3万738トン・前年同期比3.0%増、3月末在庫は1万326トン・前年同月比3.1%減。

衣料：ファッション衣料分野で合繊にフォーローのトレンドだが、消費不振が響き低調。ブラックフォーマルは主力の百貨店、専門店向けが不振。中東向け民族衣装「アバヤ」は原油価格安による中東諸国の消費減退で数量減。裏地はストレッチ差別化素材が健闘したが全般低調。これまで堅調だった「ヨガ」用のニットは一巡感が出てきた。

非衣料：タイヤコード用は織物・強力糸ともに高水準の輸入が続き、殆どが海外からの調達。カーシート用は国内自動車生産が昨年末から上向きに転じ堅調。シートベルト用は大手部品メーカーが数年前から海外生産を国内に戻し、順調に推移した。カーテンは学校、ホテル向けなどのコントラクト需要は順調だが、家庭用は住宅着工件数の増加にもかかわらず低調。ニット製の貼布剤は薬価改定、病院の支給枚数

制限で不振。土木関係は低調だが、建築関係は耐震化工事や都市再開発でオフィスビル、ホテルの建築が活発化し堅調に推移した。耐用年数が経過した除染処理用の土嚢・フレコンの更新需要が一巡して通常出荷に戻った。

フィラメント輸出：4,169 トン・前年同期比 11.2%増、フィラメント輸入：3万2,649 トン・3.1%増。

### <ポリエステルS>

2017年第1四半期のポリエステルステープルの生産は2万5,443 トン・前年同期比 15.9%減、3月末在庫は1万7,344 トン・前年同月比 11.8%減。

紡績：綿混糸使いのユニフォーム・ワーキング向けは在庫調整がほぼ完了し、回復に転じた。中東民族用（トープ）の輸出は原油価格安による消費減退で伸び悩み気味。製綿：一部の機能品（抗菌・防ダニ・防臭）などに動きが見られるが全般は低調に推移。小売販売の構造変化で専門店や通信カタログ販売が苦戦する一方、ネット販売が急拡大。

不織布：衝材用は2016年の中国向け紙おむつ・生理用品の製品輸出の伸び率が大きく鈍化したが、今年に入り勢いを取り戻した。生活資材用はワイパー向けなどで差別化品、コスメ・スキンケア商品や制汗シートが順調だった。貼布剤は薬価改定、病院での支給枚数制限の影響で不振が続く。車両資材用は吸音材などで新用途が開発され繊維消費量が増加。湿式不織布はRO膜支持体向けが、中国での家庭用浄水器の需要拡大を背景に堅調に推移した。

ステープル輸出：4,158 トン・前年同期比 24.9%減、ステープル輸入：1万6,384 トン・30.9%増。

### <ナイロンF>

2017年第1四半期のナイロンフィラメントの生産は2万4,633 トン・前年同期比 11.3%増、3月末在庫は1万460 トン・前年同月比 4.8%の減。

衣料：パンストはインバウンドの買いが需要を下支えした。米国、欧州向け高密度織物の輸出が安定しているが韓国向けは消費不振で低調。国内アウトドア向けは「ブランド間の勝ち負け」などまだら模様の展開で全般は低調。

非衣料：ラジアルタイヤ向けキャッププライ用は安定した需要が続く。オフロード車向けバイアスタイヤは建機用が回復した。タイヤコード用強力糸の輸入は落ち着いたが、中国、ベトナムからの織物輸入が急増した。エアバッグ用原糸を含む強力糸の輸出が大幅に増加し、合繊メーカーの増産意欲が強い。タカタのリコール問題で特需が発生し、エアバッグの完成品輸入や国内生産の増加が続く。タイヤカーペットは足元が一服しているが、インバウンド向けホテルや大型商業施設の完工に合わせて需要増が期待できる。車両用は自動車生産が昨年末から上昇に転じ、オプションマット向けが堅調に推移した。

フィラメント輸出：1万1,750 トン・前年同期比 28.5%増、フィラメント輸入：7,646

トッ・5.5%増。

### <アクリルS>

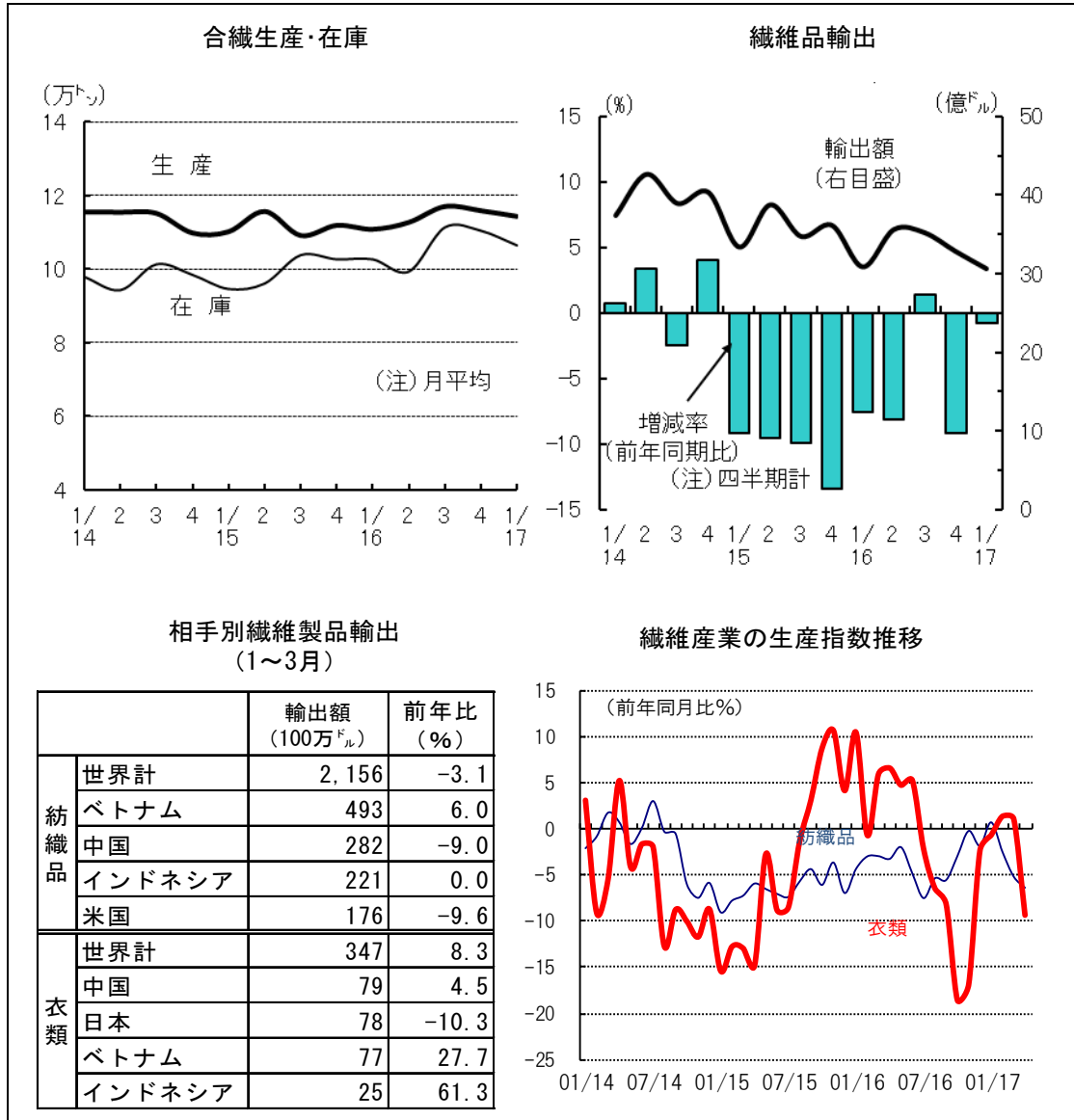
2017年第1四半期のアクリルステーブルの生産は2万8,590トッ・前年同期比7.6%減、3月末在庫は9,479トッ・前年同月比6.8%増。

衣料：保温肌着の17年シーズン向けの出荷は順調で、従来の保温肌着に比べて2倍超暖かい新商品に期待。セーター向けは大手SPA向けが徐々に増加。靴下向けは大手SPAの売り場縮小の影響などで不振が続いた。

建寝装他：毛布は長期低落傾向が続き、国産アクリル使いはごく僅かになった。カーペット関係も長繊維化が進み不振が続いた。アクリルメーカーは吸湿・発熱素材の中綿用やフィルター向けの機能紙用ショートカットファイバーなどに取り組んでいる。

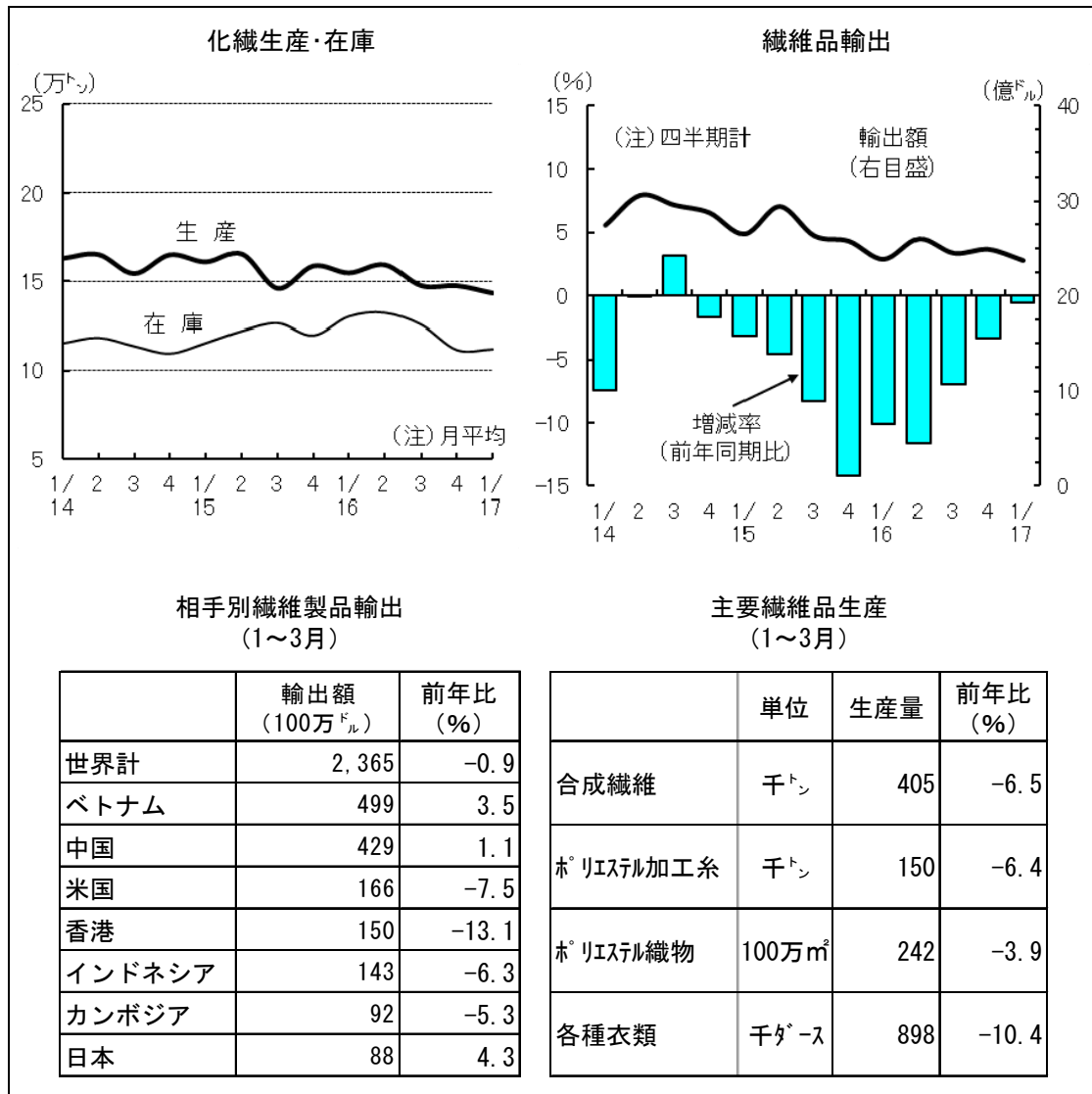
輸出：最大仕向地の中国は、1万3,131トッ・前年同期比（以下同じ）21.8%減、16年7-9月の51.5%減を底に徐々に回復、これは中国からの欧米向け再輸出が動意づいたことによる。一方、中国内需用は在庫が依然として高水準の中、エコファーのトレンドの短毛化、ポリエステル代替に加え、日本メーカー3社に対するAD課税の影響で不振。インドネシア3,565トッ・78.8%増、イラン2,948トッともに大きく数量を伸ばした背景には中国内需マーケットの不振が影響している。

7) 韓国



- ◆化繊生産は3期連続の増産となった一方、繊維品輸出は2期連続で減少した。
- ◆第1四半期の合繊生産は前年同期比3.2%増の34.3万トとなった。主要合繊では、ナイロンFは同2.0%減、ポリエステルFは同1.9%減となったが、ポリエステルSは同9.1%増、アクリルSは同9.9%増となった。期末在庫は同6.0%増であった。
- ◆第1四半期の繊維品輸出は前年同期比0.8%減の30.6億ドルとなった。繊維製品輸出を相手別にみると、紡織品は最大のベトナム向けが同6.0%増となったが、中国、米国は減少。衣類は、中国が4.5%増、ベトナム、インドネシアが大幅に増加した。
- ◆直近(2017年4月)の繊維品の生産指数をみると、紡織産業(-6.3%)、衣類産業(-9.3%)とも下落している。

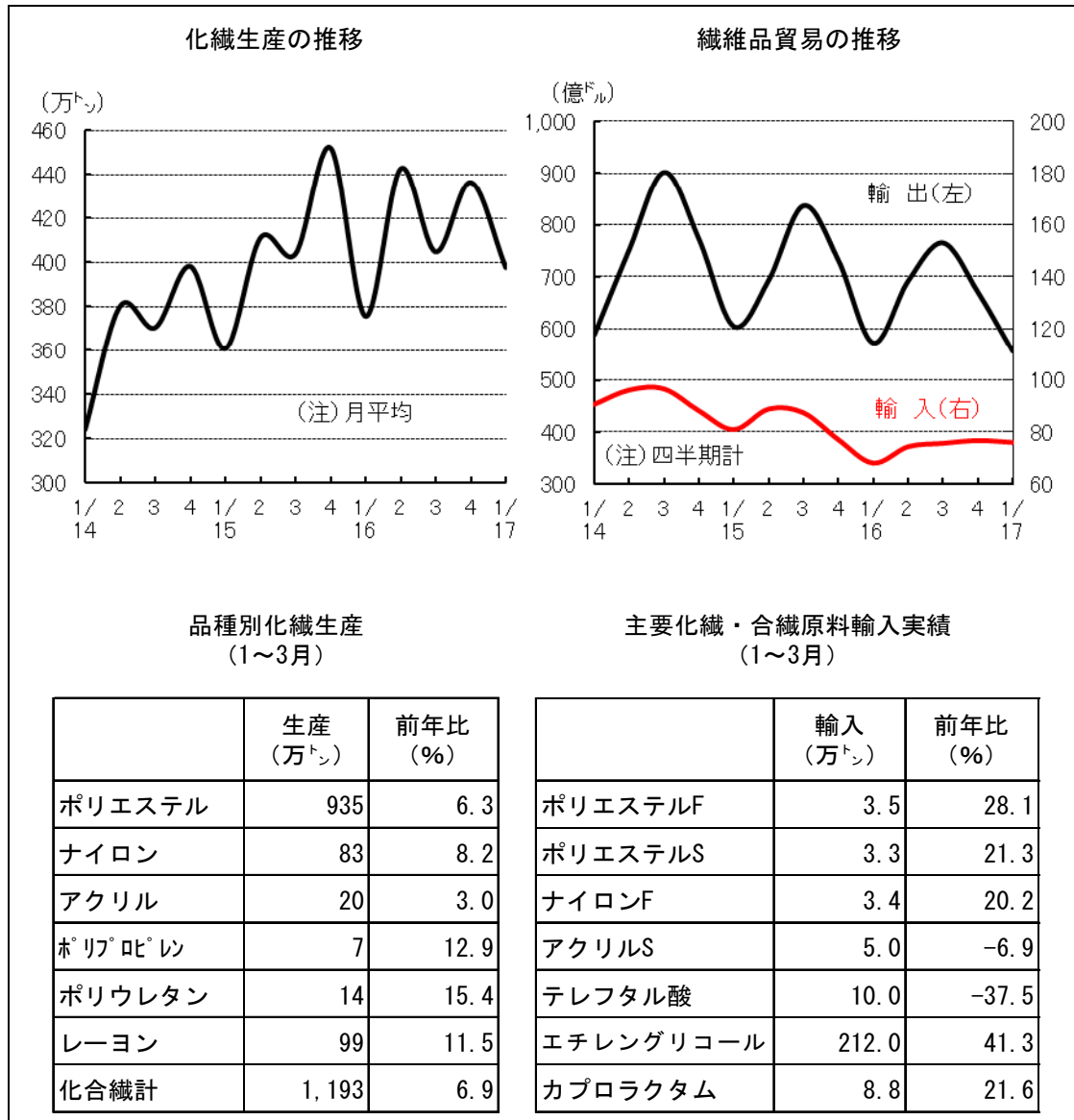
## 8) 台湾



- ◆化繊生産は2期連続の減産、繊維品輸出は10期連続の減少と長期低迷が続いている。
- ◆第1四半期の化繊生産は前年同期比7.3%減の43.1万トとなった。主力のポリエステルFは同11.1%の大幅減となったが、ナイロンFは同5.5%増、ポリエステルSは同7.7%増となった。アクリルSは同49.6%の大幅減となった。
- ◆第1四半期の繊維品輸出は前年同期比0.5%減の23.7億ドルとなった。繊維品輸出を相手別にみると、ベトナム向けは同3.5%増、中国向けは同1.1%増となったが、米国向けは同7.5%減、香港向けは同13.1%減といずれも減少した。
- ◆1~3月の主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸は前年同期比6.4%減、ポリエステル織物は同3.9%減、衣類は同10.4%減といずれも減少となった。



9) 中国



- ◆ 化繊生産は増産が続く一方で、繊維品輸出は減少が続いている、
- ◆ 第1四半期の化繊生産は前年同期比6.9%増の1,193万トンとなった。品種別にみると、主力のポリエステルは同6.3%増の935万トン、ナイロンは同8.2%増の830万トン、アクリルは同3.0%増の20万トンとなった。なお、同期間の紡績糸生産、織物生産は6.0%増、3.7%増となった。
- ◆ 第1四半期の繊維品輸出は前年同期比2.9%減の557億ドル、6期連続の減少となった。一方、輸入は同11.6%増の76億ドルとなった。
- ◆ 1~3月の合繊原料輸入は、テレフタル酸は37.5%の大幅減となったが、エチレングリコール、カプロラクタムは大幅増となった。

相手別繊維製品輸出  
(1～3月)

	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)
世界計	549	-1.7
アジア計	248	-3.2
日本	47	-1.3
香港	27	-10.7
アセアン	70	-6.0
ベトナム	24	-16.0
EU	96	-3.2
米国	91	-0.8

繊維業界の主要指標  
(1～3月)

	単位	指標	前年比 (%)
企業数	万社	3.70	-
赤字企業数	万社	0.58	-4.8
主要業務収入	億元	16,497	9.2
うち化繊産業	億元	1,856	15.0
利潤総額	億元	846	12.9
うち化繊産業	億元	97	84.7
繊維産業実際投資	億元	2,081	9.7
うち化繊産業	億元	255	21.5

社会小売財消費総額  
(1～3月)

	単位	数値	前年比 (%)
商品売上総額	億元	85,823	10.0
うち繊維品等	億元	3,648	6.2

繊維関連物消費者物価指数  
(1～3月)

	前年同期比 (%)
消費者価格指数・全製品	1.4
消費者価格指数・衣類等	1.2

- ◆1～3月の相手別の繊維製品輸出は、全体で前年同期比1.7%減となった。アジア向けは3.2%減、そのうち、日本向けは同1.3%減と続落、ベトナム向けも同16.0%の大幅減となった。欧米向けは、EU向けは同3.2%減、米国向けは同0.8%減とともに減少した。
- ◆1～3月の繊維産業の主要指標は、主要業務収入は前年同期比9.2%増、利潤総額は同12.9%増と引続き堅調であった。繊維産業の投資は前年同期比9.7%増、そのうち化繊産業は21.5%の大幅増となった。
- ◆1～3月の衣料用内需は前年同期比6.2%増と引続き堅調に推移した。衣類等の消費者物価指数は前年同期比1.2%上昇した。

## 合織4品種需要実績(2017年1～3月)

### I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2017年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	22,063	92.6	95.6
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	38,224	98.0	102.3
	計 (輸入)	60,287 (32,694)	95.9 (95.1)	99.8 (103.1)
輸出 (原糸、加工糸)		1,821	99.8	105.6
需要計		62,108	96.0	99.9
在庫		10,326	98.3	96.9

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### II. ポリエステルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2017年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む)	5,233	99.0	87.3
	非紡績用 (加工品輸出用含む)	34,824	92.4	96.7
	計 (輸入)	40,058 (16,384)	100.5 (99.7)	104.1 (130.9)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		2,071	84.6	70.7
需要計		42,129	99.5	101.8
在庫		17,344	94.0	88.2

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2017年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	5,626	99.0	99.6
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	17,912	102.8	104.2
	計 (輸入)	23,538 (7,646)	101.9 (91.5)	103.1 (94.5)
輸出 (原糸、加工糸)		9,094	120.0	125.6
需要計		32,632	106.3	108.5
在庫		10,460	98.1	95.2

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### IV. アクリルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2017年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	6,369	151.6	96.8
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	1,631	110.7	79.8
	計 (輸入)	8,000 (114)	141.0 (30.6)	92.8 (60.0)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		24,472	117.7	100.5
需要計		32,472	122.7	98.5
在庫		9,479	75.2	106.8

(注)国内需要の( )内数値は輸入量